

[成果情報名] カワウ営巣地における卵のドライアイス処理による繁殖抑制効果

[要 約] 県内の2ヶ所のカワウ営巣地において卵のドライアイス処理を実施した結果、それぞれ81.5%、100%と高いふ化抑制率であり、卵のドライアイス処理によりカワウの繁殖が抑制されたと考えられた。

[部 署] 山形県内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 指

[キーワード] カワウ、営巣地、ドライアイス、ふ化抑制率

[背景・ねらい]

本県では、1930年～1940年代にはカワウの有鳥獣駆除が実施された記録があることから、数多くが生息していたと考えられるが、高度経済成長期には、カワウは姿を消したと思われる。その後、2002年頃に県南地域で数羽確認されて以降、県内での生息数が増加、生息場所が拡大し、内水面漁業に大きな被害を与えていると考えられている。

近年、卵のドライアイス処理によるカワウの繁殖抑制技術が開発され、新潟県と山梨県で実施されている。2013年度、本県でも初めてカワウ営巣地において卵のドライアイス処理を実施し、その効果を検証した。

[成果の内容・特徴]

1. 卵のドライアイス処理は、本県で確認されている2ヶ所のカワウ営巣地で実施した（図1）。実施日および確認日を表1に示す。
2. 営巣が確認された木及びその巣の位置をスケッチした。作業員が、長井市コロニー（長井市泉地内最上川河畔）では梯子、須川コロニー（山形市中野地内須川河畔）では高所作業車で、鏡を用いて卵と幼鳥の数およびそれらへのドライアイス（直径3mmペレット状）の投入の有無を報告し、それらを記録した。なお、ドライアイスは、鏡で確認しながら卵にまんべんなくかかる量を入れた。
3. 長井市コロニーで、営巣が確認された木は6本、ドライアイス処理した巣は20個、総卵数は71個、確認日にそれらの巣で確認されたふ化した幼鳥の総数は14羽であり、ふ化抑制率は81.5%であった（表2）。
4. 須川コロニーで、営巣が確認された木は15本、ドライアイス処理した巣は19個、総卵数は54個、確認日にそれらの巣でふ化した幼鳥は確認されず、ふ化抑制率は100%であった（表2）。
5. いずれの営巣地でも高いふ化抑制率であり、ドライアイス処理によりカワウの繁殖が抑制されたと考えられた。

[成果の活用面・留意点]

1. 確認日には、処理後に産み足されたとされる卵が多く確認された。また、木が高過ぎてドライアイス処理ができなかった巣もあった。それらへの対応は、今後、山形県内水面漁業組合連合会などと検討していく必要がある。
2. 新潟県でのふ化抑制率は92%程度であり（山本麻希氏 私信）、長井市コロニーはそれより悪い結果となった。作業員によれば、高所作業車を使用した方が作業しやすかったとのことである。高所作業車を使用したため、須川コロニーのふ化抑制率が高かった可能性が考えられる。
3. 実施日が長井市コロニーより1週遅くなった須川コロニーでは、実施日にふ化していたヒナが確認されている。ふ化する前で、1巣4～5個の卵を産んだ時点での実施が望ましいため、本県での実施は4月上旬が良いと思われる。
4. ドライアイス処理をする場合は、「鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可申請」と「従事者証交付申請」を総合支庁環境課に提出し、県の許可を得る必要がある。

[具体的なデータ]

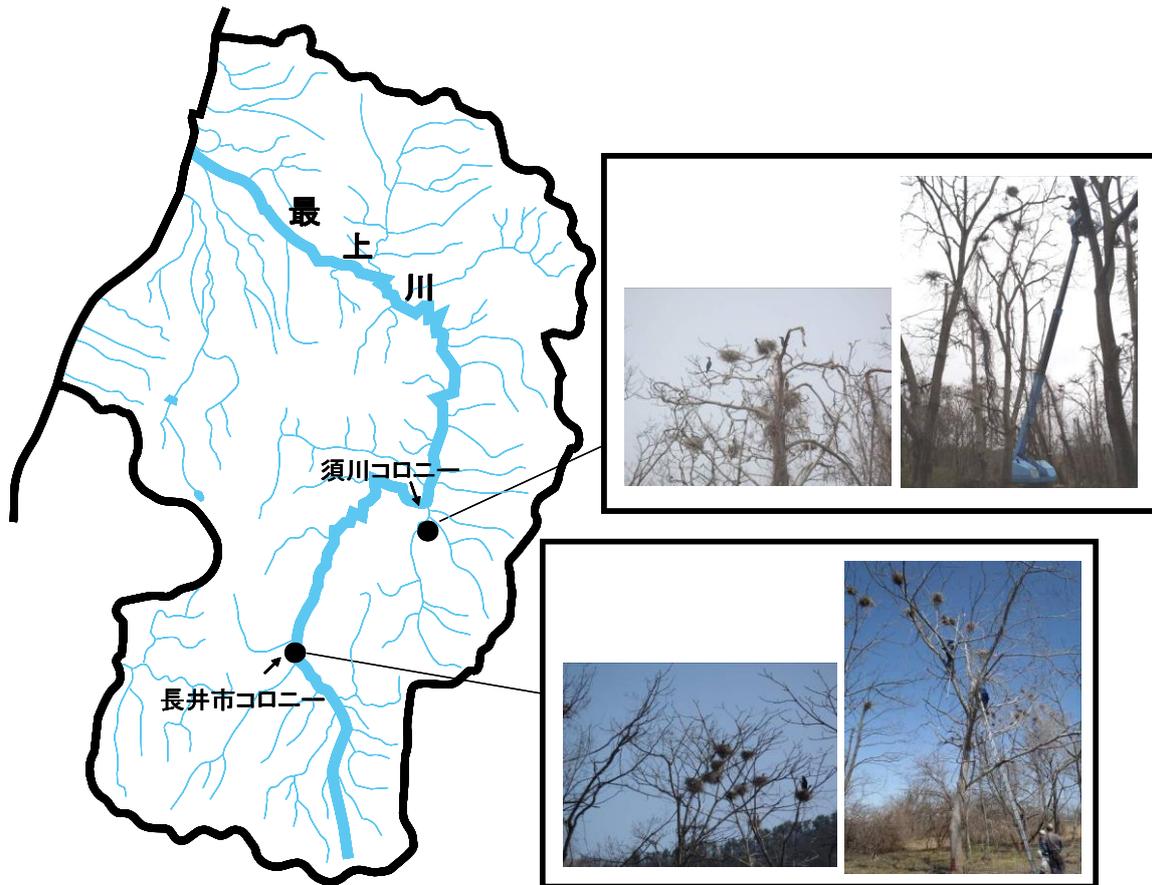


図1 卵のドライアイス処理を実施したカワウ営巣地

表1 卵のドライアイス処理実施日および確認日

	実施日	確認日
長井市コロニー	4月9日	5月1日
須川コロニー	4月18日	5月8日

表2 ドライアイス処理の結果

	営巣が確認された木 (本)	ドライアイス処理した巣の総数 (個)	ドライアイス処理した総卵数 (個)	ドライアイス処理をした巣で確認した幼鳥の総数 (羽)	平均ふ化抑制率 (%)
長井市コロニー	6	20	71	14	81.5
須川コロニー	15	19	54	0	100

参考文献

山本麻希. 2008. カワウってどんな鳥～効果的な管理・防除に向けて～. 全国内水面漁業協同組合連合会

[その他]

研究課題名：外来魚対策事業費

予算区分：県単

研究期間：平成25年度

研究担当者：河内正行・山形県内水面漁業組合連合会

発表論文等：なし